



●花火よ、ありがとう

日差しを避けて、閑静な住宅街を歩いてみると、道すがら家々の庭先や軒先に植えられた草木からは、四季の移ろいを垣間見ることができま

す。入梅になるのを待ちかねたように、紫陽花が咲きだしました。パステルカラーの白、薄紅や薄紫色などで彩られた花々で目を楽しませてくれます。やがて、それも梅雨明けの頃には、鮮やかな色は失せて、花房は焦げ茶へと変色し、ひからびて花としての使命を終えました。

そして、季節は夏本番を迎えました。きのう来た区の広報紙には、花火大会開催の告知が掲載されています。

夏の夜空に大音響とともに、高く打ち上げられて咲く大輪の花々が、咲いては消え、消えては咲くさま



に歓声をあげ、愛でる衆を河原からの涼しい風が吹き抜けてゆきます。花火見物は、日中の猛暑でうんざりした体を癒してくれる、最高のストレス解消になるでしょう。これからは、日本列島の各地で、花火大会の催しが目白押しです。これらの催しは、豊かさや平和の証と言えるのでしょうか。今、この時間にも、地球上の何処かで、花火ならぬ戦火が飛び交っています。逃げまどうたいたいけな子供らや、泣き叫ぶ母親らの映像を見るにつけ、戦火を花火に変えられる日が一日でも早く来ることを願わずにはいられません。

花火よ、ありがとう。
(世田谷区/H・A)

●やいばりした時間をありがとう

初めて隠れ家のようなお店に幼馴染と入りました。中はほぼ満席。ランチのコースを注文しましたが、なかなかお料理が出てきません。どうも厨房は二人でやっているよう

で時間がかかり、「なかなか出てこないよね。」と思わず言っていました。前菜をいただいても「次、出てこないね。」と。食事の間は長く、お料理はなかなか出てきませんが、幼馴染とは久しぶりに会ったので話がはずみ、次々と話が出てきたので腹も立ちませんでした。最後にコーヒを飲み、三時間。お店を出て、「楽しかったね。」と笑顔になりました。

ゆっくりりさせて頂き、ありがとう。
(渋谷区/Y・H)

●父母にありがとう

塗装屋に弟子入りしたのは十七歳の時でした。親方に叩かれ、ひっぱられ、泣いたお陰で誰にも負けられない前腕に仕込んでもらい、今では名指しで仕事ができます。

びっしょり汗をかき、いい仕事をしてお客さんに喜んでもらい、夕食に大好物のお刺身をつまみにビールを一杯。毎日食卓にお刺身がないと機嫌が悪い頑固者。「お父さんはお刺身を食べていれば機嫌がいいんだから。」と家内はいつも言います。

早いものであれから50年が過ぎました。65歳過ぎた頃から年には勝てない。足がふらつき怪我をするようになりました。一年に一回入院を繰り返しています。父母がいつもあの世で守ってくれているから、俺は元気で働ける。ありがとう。
(大田区/I・H)



●介護をせむせむにありがとう

私は施設で事務の仕事をしていました。生前、義母が入院した時にお世話になった看護師さんが私の勤務する施設に入居して来ました。

介護士がお世話をしますが、一つ一つそれは違うでしょう。「とイライラ落ち着きません。どう手を出してよいか困っていました。見かね

た私は「ご苦労されたんですね。」と手をなでてあげ、この手でたくさんの人を助けていらしたと、今までの功績をたたえ「先生、これでいいですか?」と伺いながらやると喜んで静かになりました。義母の介護を喜べない時もありましたが、病んでいる気持ちに寄り添えるよう努力しました。今仕事の上ですごく役に立っています。おかあさん、ありがとう。
(武蔵野市/T・E)

●友人にありがとう

学生時代の友人が店を出したというので、仲間4人で行ってきました。お店は12人程が座れば満席になる小さなお店でしたが、なかなか雰囲気の良い洒落たお店で、友人の意外なセンスの良さに驚かされました。

つまみのメニューやお酒の品目も多く、それらを1人で切り盛りしてました。「お酒が薄すぎませんか?」と伺ったりお客様への気配りもしっかりしていたと思います。学生の頃はどこか頼りないところがあり、20代の頃は職も転々としていたの心配していましたが、そんな友人の一生懸命働いている姿を目の当たりにすると、みんな大人になったんだなと感心したり、嬉しかったり、なぜか照れくさかったりと、お酒も入りいろいろと感慨深い夜となりました。

お店が遠く月に1、2度しか行きませんが、時間がある時には出向き売上に貢献しようと思っています。友人を見てみると元気になれます。憩いの場をありがとう。
(川崎市/R・T)

●お花屋さんにありがとう

NHKの朝ドラ「花子とアン」の影響か、町のあちこちで「ごきげんよう」のあいさつが飛びかっています。気持ちよく笑顔になります。

お盆で仏様のお花を買に行きますと気に入ったお花がなく、三軒目のお店に入った途端、順番を待っているお客様が私に向かって「ごきげんよう」と声をかけてくれました。なんだか親しみを感ずきました。

一年に一回のご先祖様がお帰りになる日なので、ご先祖様をお迎えする私の心をお花屋さんへ伝えました。すると心臓(赤)、腎臓(黒)、肝臓(青)、肺臓(白)、脾臓(黄)の五臓の色のお花を取り入れて、最後に泥の中でも清い花を咲かす蓮の花を入れて花束を作ってくださいました。

初めて耳にしたお花の意味に私は感動。まれなお花が用意でき、今年もご先祖様をお迎えすることが出来ました。ありがとうございます。

(豊島区/T・Y)



●Mちゃん、めいがかん!

嬉しいことがありました。何と六十年ぶりに幼なじみのMちゃんが電話をくれたのです。この子とは小学二・三年の頃、近所にて毎日学校が終わると日暮れまで遊んでいました。

電話ではその頃夢中になって遊んでいた馬とび、なわとびやゴムとびのことを話しました。Mちゃんは、私より一つ上。近くに同年代の女の子はいなく、本当によくまあ毎日、遊んでいたものだと思います。当時は塾へ行くこともなく、ひたすら外で遊んでいました。

Mちゃんは私の父のこともよく覚えていて、おじさんは面白い話をよくしてくれました。ある時、Mちゃんは「おじさん、男の子たちが私のことを『お前は猿に似ている。』と言うんだよ。」と言いました。すると父は「何言っているんだ。お前が猿に似ているんじゃない。猿がお前に似ているんだよ。」と言ったそうです。このように父は江戸っ子でユーモアのある人でした。Mちゃんとの会話で父のことを懐かしく思い出しました。

父はもう四十年近く前に亡くなったのに、当時のことが鮮明に思い出されました。父は優しい人で、一度も叱られたことはありませんでした。Mちゃんは私のノートの表紙にきれいな字で私の名前を書いてくれました。いろいろなことを思い出させてくれたMちゃんにありがとうと言いたいです。

Mちゃんは今では孫が六人もいて、みんな外に出ています。郊外で一人暮らしをして元気になっています。また電話をと約束して切りました。またMちゃん、ありがとうございます。

(目黒区/H・O)

●お氣遣いをありがとう

今年で八十三才になります。ぜひ来て下さいと言っていたとき、お陰さまで元気に家の前の専門学校のお掃除に行かせていただいています。目の前の人を大切にしたいと常々思っています。

私の子供と同じくらい先生にあいさつする時に「お父さま、お元気ですか?」と尋ねると、「私はなかなか親孝行が出来ないんです。」とのこと。私が、「一緒に暮らしていらっしやるんですから、親孝行ですよ。」と言うと、「そうでしょうか、おばさんにそう言っていただけで、ホツとしました。」と喜んでいただきました。

(荒川区/N・I)

●祖父の時計にありがとう

おばから金ピカの腕時計をいただきました。祖父の形見だそうです。文字盤が若干曇っており、金属製のベルトの部分は大分汚れていました。



知り合いの時計屋さんに修理を願いました。すると50年以上経っていても故障している箇所はごくわずか、時計内の状態は非常に良いそうなので、ネジ巻き式なので毎日ネジを巻けば、普通に使用できますとのことでした。最近では電池式、それもソーラー電池式になれて一日一回のネジ巻きも面倒くさく感じてしまいましたが、ネジをキコキコ巻いていると「おじいちゃんもこうやって愛用していたのかな。」と自分が生まれる前に亡くなっており、会ったことのない祖父を身近に感じることができて嬉しかったです。

(西東京市/M・N)

【携帯 Deショット】

日比谷公園の朝顔展の帰りに立ち寄った帝国ホテルのロビー正面のセンターテーブルに、素晴らしいヒマワリ畑が再現されていました。顔を近づけて観ると『ひまわり』の香りとともに、ゴッホの絵が思い浮かんできました。



- 携帯電話の方はQRコードから →→→
- パソコンの方は下記のURLから ↓
- メールでのご投稿は…

<http://1039.seesaa.net/>
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

「原稿をお待ちしています。」

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せいただいた「ありがとう」のことに因り、短歌、写真、詩、俳句、短文、絵画などを掲載します。作品は編集部まで送ってください。投稿いただいた方には、ささやかなご挨拶ですが、オリジナル「ありがとう」マグネツキをプレゼントさせていただきます。



編集へのご意見やご提案がございましたら是非ともお聞かせください。

